総合内科

部長　浅羽　宏一

はじめに

当科は救急診療に強い総合診療医育成を目指し 2014 年 1 月に杉本和彦医師により総合診療科として開設されました。2015 年 2 月には浅羽が、2019 年 7 月から中山修一医師が加わり、開設当初から、主に救急科（ER 科）、内科の先生方と協同で、救急車で来院される患者さんや歩いて救急外来を受診される患者さんを診療し、学生や研修医の指導を行って来ました。2020 年 6 月に杉本医師が退職され外科系の診療が出来なくなりましたが、2021 年 4 月から消化器内科の市川博源部長が総合診療科に移籍され、内科専攻医の岸本浩一郎医師が加わったことで、内科系の総合診療を行う総合内科・総合診療科へ科名を改称し生まれ変わり、その後名称が長いので総合内科に変更されました。

外来診療

月曜日の午前中を市川医師が、水曜日の午前中を中山医師が、金曜日の午前中を浅羽が研修医の指導を行いながら救急外来で歩いて来院される患者さんの診療をしています。2022 年 5 月から福田憲二医師（循環器内科専門）がパートで金曜日午前中の救急外来を担当して下さっています。2022 年は 1847 名（昨年 2371 名）の救急患者さんを診療し、その内研修医を指導しながら診察した患者さんは 167 名（昨年 339 名）でした（図 1)。コロナ感染の影響で救急外来受診の患者さんは激減しています。診断に難渋している患者さんのご紹介も開業の先生方から頂いております。昨年は 141 名でしたが 2022 年は 169 名に増えています（図 2)。これからもご紹介頂いた患者さんを我々が正しく診断し適切な診療科に院内紹介したいと思います。今年も、COVID19 感染症対策で大変な 1 年でした。感染症科の石田先生の指導の下、市川医師と中山医師は他の内科医師と協力して発熱外来を担当しました。

入院診療

精神科医で内科研修を希望された町野文規医師の加入に合わせて、2019 年からは入院診療を開始しました。入院患者数は 2019 年には 227 名でしたが、2020 年には 270 名、2021 年には 498 名、2022 年には 589 名になりました（図 3)。疾患別では尿路感染症、高齢者の誤嚥性肺炎などが多く、低 Na 血症などの電解質異常や糖尿病性ケトアシドーシスなどの糖尿病関連疾患の患者さん、クッシング症候群、原発性アルドステロン症などの内分泌疾患も担当しました。5 月に救急医療の勉強のため精神科医の町野医師が再び我々に加わり入院患者さんの診療に当たっています。10 月からは初期研修医 1 名がローテーションで当科を研修しており益々活気が出てきました。10 月は竹田有佑医師、11 月森田耕吉医師、12 月木村和俊医師、1 月三浦格医師、2 月小田吏欧医師、3 月浅羽直医師らと共に学び、働きました。今年も昨年同様、市川医師、中山医師は感染症科の石田先生や他の内科医師と協力して、COVID19 の入院患者さんの診療にあたりました。浅羽、市川医師は今年も病棟総合医として主に整形外科病棟において整形外科入院中の患者さんの内科的診療のサポートを行いました。

今後の展望

総合内科のメンバーも増えてきました。「病気を診ずして病人を診よ」をモットーとして今後も全人医療を行い、専門領域に拘らない医療を行います。研修医が常にローテーションで研修する環境になりましたので、スタッフ医師も研修医を指導し、自ら学びお互いに成長していきたいと思います。

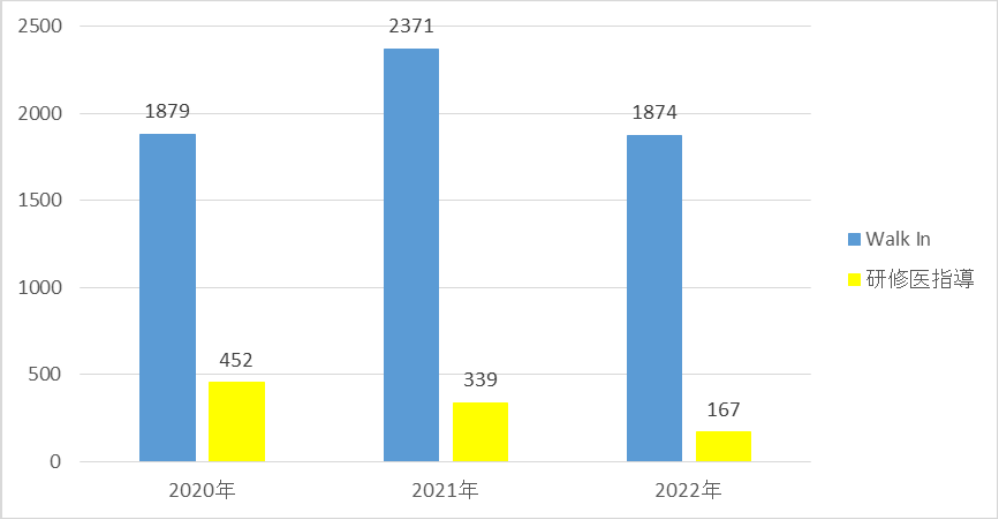

図 1　総合内科 Walk In 外来

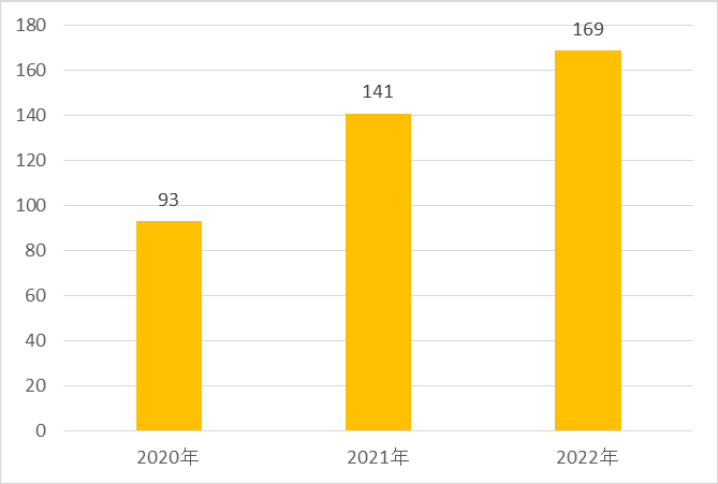

図 2　総合内科への紹介患者数

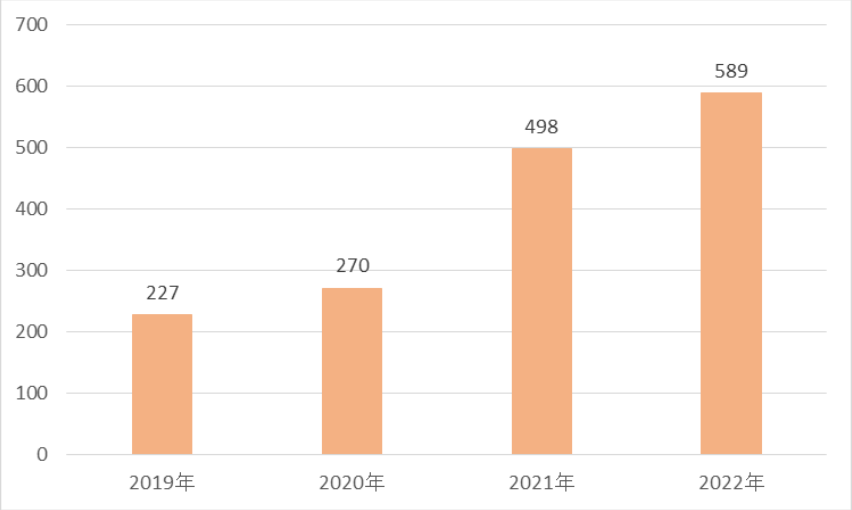

図 3　総合内科・入院患者数

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
カルバマゼピンによる徐脈発作を来した高齢者の 1 例	岸本浩一郎 葛目大輔、森本優子、細見直永、山﨑正博	第 33 回日本老年医学会四国地方会	1 月 23 日 web
下咽頭癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療中に発症したニボルマブ関連気管気管支軟骨炎の一例	澤村大造 谷口義典、大出佳寿、猪谷哲司、西川浩文、松本竜季、堀野太郎、寺田典生	第 66 回日本リウマチ学会総会・学術集会	4 月 25 日～27 日 神奈川
両側外転神経麻痺を呈した Wernicke 脳症の 1 例	岸本浩一郎 葛目大輔、森本優子、細見直永、山﨑正博	第 126 回日本内科学会四国地方会	6 月 5 日 web
ロスバスタチンとサクビトリルバルサルタンの併用で横紋筋融解症を来した 1 例	岸本浩一郎 竹下昌宏、川井和哉、浜重直久	第 126 回日本内科学会四国地方会	6 月 5 日 web

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	掲載誌 出版社	巻・号 ページ
Tissue-specific regulation of 11ß hydroxysteroid dehydrogenase type-1 mRNA expressions in Cushing's syndrome mouse model	Mitsuru Nishiyama Yasumasa Iwasaki , Shuichi Nakayama , Mizuho Okazaki , Takafumi Taguchi , Masayuki Tsuda , Shinya Makino , Shimpei Fujimoto , Yashio Terada	Science Direct ELSEVIER	Steroids 183 (2022) 109021